さいたま市長定例記者会見

令和２年１月２２日（水曜日）

午後１時３０分開会

○　進　　行　　定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。

それでは、記者クラブ幹事社、埼玉新聞さん、進行をよろしくお願いいたします。

○　埼玉新聞　　１月幹事社を務めます埼玉新聞と申します。よろしくお願いします。

それでは、本日の記者会見内容につきまして、市長から説明をお願いします。

○　市　　長　　皆さん、こんにちは。

新しい年に入ってからも比較的暖かい日が続いております。東北、北海道では、雪不足によってイベント等に影響が出ているようで、世界的な温暖化傾向がさらに顕在化してきているように感じます。

今月２６日は「文化財防火デー」であります。昨年は、４月にノートルダム大聖堂や１０月の首里城跡など歴史的建造物が火災に遭いました。炎上し、建物が崩れ落ちる様子が今も記憶に残っているものと思います。

さいたま市では、先日資料を提供させていただきましたが、貴重な文化財を守るため、各消防署で消防訓練を実施しております。記者の皆様にも報道を通して文化財への防火防災意識の向上のため、ご協力をお願いしたいと思います。

また、（３月）２８日、２９日の２日間にわたって行われます「さいたマーチ」の参加者を現在募集中でございます。この時期に味わえる「日本一の桜回廊」などをめぐり、さいたま市の魅力を満喫できるイベントとなっておりますので、全国各地からの参加をお待ちしております。

市長発表：議題１「さいたま市にぎわい交流館いわつきが開館します」

それでは、本日の議題に入らせていただきます。まず、議題の１ですが、「さいたま市にぎわい交流館いわつきが開館します」について説明します。

まず、施設のコンセプトですが、にぎわい交流館いわつきは「岩槻の新し

い楽しみが見つかる場所」をコンセプトにしております。施設の目的としましては３つございます。１つは「岩槻の歴史及び文化の発信」、それから２つ目として「産業及び観光の振興」、それから（３つ目として）「地域のにぎわい創出」としております。

にぎわい交流館いわつきにおきましては、岩槻人形博物館やさまざまな団体等と連携を図るとともに、地域における催事と連動したイベントを実施してまいります。そうしたことで、施設へ人を呼び込むとともに、観光情報等を積極的に発信し、街中への回遊性を促進してまいります。回遊性が生まれることによって、岩槻のまちの魅力の向上につながり、交流人口を増加することで地域の活性化を図っていきたいと考えております。

次に、開館日などについて説明をします。まず、開館日ですが、令和２年２月２２日土曜日です。同じ敷地にあります岩槻人形博物館と同時オープンとなります。

営業時間は、午前９時から午後９時半までとなります。なお、初日については１０時から開館を予定しております。休館日は、年末年始の１２月２９日から１月３日までです。

所在地は、さいたま市岩槻区本町６丁目１番２号、岩槻駅東口から徒歩で約１０分の距離にございます。

施設の概要でございますが、敷地面積としては１，２４４．１０平方メートル、延べ床面積としては８２０．９５平方メートルになります。また、構造でございますが、鉄骨造地上２階建てで、総工事費としては約３億７，８００万円です。

なお、施設の管理運営につきましては指定管理者制度を活用して、地域との太いパイプを持つ「さいたま商工会議所」に担っていただくことになります。

施設の主な導入機能について説明します。まず、１階の部分でございます。これは、交流・休憩ルームを設けさせていただいております。訪れた人が自由に過ごせる空間で、観光情報の提供をはじめ、地元の工芸士を招いた制作実演、また地域のイベントと連動した企画や作品展示を予定しております。

また、同じく１階にありますカフェとショップについてです。岩槻で主に生産されておりますヨーロッパ野菜を使ったメニューを提供するカフェ、そ

れから地域の特産物等の販売を行うショップコーナーを設けることで地域資源の活用を図っていきたいと考えております。特にヨーロッパ野菜につきましては、なかなか手に入らないというイメージがございますが、にぎわい交流館のカフェなら食べられる、また買えるといった場所にしていきたいと考えております。

また、にぎわい交流館前のスペースの貸し出しを行う予定でございます。これは、有料で行わせていただきます。地元野菜の朝市、また手工芸品などの販売、またキッチンカーによる飲食の提供などイベントのスペースとしての利用を予定しております。

次に、２階の部分でございますが、こちらは、貸し出し用のスペースとして多目的室１、２を設置します。この多目的室は、つなげて使用することも可能なスペースとなっておりまして、地域企業や市民活動団体の会議や研修会の実施、写真や絵画の展示会など、さまざまな用途で活用できると考えております。

次に、クラフトルームですけれども、ここでは地域の伝統的工芸品であります岩槻人形の技術を活用した「木目込み人形づくり」をはじめとしたさまざまな体験講座の実施を予定しております。また、人形博物館へ社会科見学に来た場合もクラフトルームで制作体験ができるようにしてまいります。

次に、開館記念式典等について説明します。開館初日の令和２年２月２２日土曜日の午前９時から実施します。そして、９時から９時４０分の間に記念式典を行わせていただきます。場所は、岩槻人形博物館の会議室及びロビーです。

なお、開館記念式典後、駐車場におきまして、人形のまち岩槻まちかど雛めぐり実行委員会により、子供たちがおひな様に扮しました「おひな様パレード」などもあわせて実施をすることになっております。

また、にぎわい交流館いわつきでは、オープニング記念事業として、地元岩槻の職人による和菓子づくりの実演でありますとか、茶道会と連携した抹茶の提供、また木目込みストラップの制作体験などを予定しております。

また、開館記念事業でございますが、１階の交流・休憩ルームにおきまして、人形のまち岩槻まちかど雛めぐり実行委員会と連携して、地元で作成されました吊るし雛、ちりめん細工を展示する予定となっております。期間は、

令和２年２月２３日から３月８日まででございます。特に吊るし雛は大きいものを設置することになりますので、大変見ごたえのある吊るし雛になると思います。

また、開館を記念して、岩槻出身の落語家で三遊亭楽生さんによります開館記念落語を実施します。３月１日の日曜日午前１０時からにぎわい交流館いわつきの２階多目的室で実施をする予定となっております。

また、隣接する岩槻人形博物館の開館時の企画展についてですけれども、「開館記念名品展Ⅰ　雛人形と犬筥・天児・這子」と題して、２月２２日から４月１２日まで開催いたします。詳細は、お配りしておりますチラシにあるとおりです。

また、トークセッションを予定しておりまして、子供の祝いとは異なるひな祭りやひな人形の価値について、大人の趣味、またひな祭りの観光資源化をキーワードといたしまして、人形文化に造詣が深い方々にお話しをいただきたいと考えております。

にぎわい交流館いわつきは、さまざまな機能を持った施設でございます。先ほど説明したとおり、休憩スペースやカフェなども併設し、気軽に立ち寄れる施設となっております。魅力ある事業をこの施設で展開して、令和２年度の年間来館者数につきましては１５万人を目標として達成していきたいと考えております。

岩槻人形博物館とともに岩槻のシンボルとして、人形のまちとしての歴史や文化を発信し、城下町のにぎわいや交流を生むまちづくりの拠点施設となることを期待しております。ぜひ多くの方々にご利用していただきたいと思います。

私からの説明は以上です。

幹事社質問：

① 東京 2020 大会へ向けた催しや情報発信など概要と準備状況について

② 「新たなモビリティサービスによる『まち』づくり協議会」の取組と今後の方針について

③ 法改正による今後の成人式についての方針について

○　埼玉新聞　　市長からの説明について、マイクを使用して質問をお願いします。

それでは、幹事社として代表質問させていただきます。質問は３点ございますので、よろしくお願いします。

１点目です。先日１２月定例会で、盆栽振興イベントをはじめ市の魅力発信事業、市内イベント開催、都市装飾事業について債務負担行為が設定されました。市内も会場となる東京２０２０大会へ向け、どのような催しが行われ、どういった情報を発信するのかお聞かせください

２点目です。昨年６月８日、さいたま市と草加市、越谷市、八潮市、三郷市、吉川市、松伏町による「新たなモビリティサービスによる『まち』づくり協議会」が設立されました。これまでの取り組みと今後の方針をお聞かせください。

３点目です。今月１３日、成人式が行われました。所感をお聞かせください。また、法改正により、２０２２年４月１日に１８歳、１９歳の方は成人となります。今後の成人式について方針をお聞かせください。

以上です。

○　市　　長　　それでは、幹事社からのご質問に順次お答えをしたいと思います。

まず、初めの東京２０２０大会に向けての催しと情報発信等、準備状況についてのご質問にお答えします。本市は、東京２０２０オリンピック競技大会におきましてサッカーとバスケットボールの開催会場となっております。メディア等を通じまして、世界の注目が集まることはもちろんのこと、海外から大変多くの観戦客あるいは大会関係者が来訪することが見込まれております。そのため、これをまたとない絶好の機会と捉えまして、観戦客等へのプロモーションあるいは各種イベントを実施して、本市の魅力を広く国内外に発信をしていきたいと考えております。

そこで展開するものの一つが「（仮称）大宮盆栽振興イベント開催事業」で、既に債務負担行為を認めていただいています。ここでは、この東京２０２０大会期間中において、さいたま市の盆栽の魅力を発信する絶好の機会と捉え、「（仮称）大宮盆栽振興イベント」を開催します。開催期間は、７月２３日から８月１０日までを予定しております。会場は、大宮盆栽美術館をメイン会場として、サブ会場として大宮盆栽村、さいたま新都心駅や大宮駅周辺で開催する予定です。

イベントの内容ですが、大宮盆栽美術館では、映像や音、光を活用した盆栽の展示を行うほか、開館時間を延長して盆栽庭園をライトアップするなど、新しい盆栽の見方、楽しみ方ができるようにしたいと考えております。また、盆栽文化を次の世代に伝えていくために、子供やファミリーでも楽しめる演出を加えたいと考えております。

次に、さいたま新都心駅周辺では、日本の床の間飾りを再現した盆栽展示や大宮盆栽美術館のＰＲを行って、多くの方に大宮盆栽村に来てもらえるようにしていきたいと考えております。さらに、大宮駅周辺におきましては、昨年姉妹館提携の調印をしたアメリカの国立盆栽・盆景園など海外の盆栽関係者をお招きして、盆栽文化の発信、次の世代への継承について考えるシンポジウムの開催を企画しております。

準備状況でございますけれども、現在、大宮盆栽協同組合などの関係団体とイベント内容の協議を行っております。また、イベントの運営を行う事業者の選定準備を進めているところです。

次に、「東京２０２０大会を活用した市の魅力発信事業」についてですが、これは東京２０２０大会を、先程も申し上げましたが、さいたま市の魅力を発信するための絶好の機会と捉え、その発信のための準備を進めております。

事業内容についてですが、まず１つは魅力発信動画の制作をします。映像は、本市の伝統文化と環境未来都市の取組に関するもの、上映場所は会場周辺のほか、市所有のデジタルサイネージや鉄道広告などを計画しております。

また、会場周辺での魅力発信としては、さいたまスーパーアリーナ及び埼玉スタジアム２〇〇２周辺におきまして、本市の伝統文化や環境未来都市の取組等に関する展示のほか、日本文化体験、具体的には浴衣の試着体験であるとか習字の体験などを検討しているところです。また、盆栽美術館等のミュージアムグッズなどの物品販売を検討しているところです。

また、外国人に向けた事前周知では、外国人向けの情報誌の東京２０２０大会に向けた増刊号に本市の記事を掲載して、訪日、また在日外国人向けに広く情報発信を行ってまいりたいと考えております。準備状況としては、今、契約のための準備を行っている最中です。

また、「東京２０２０大会市内イベントの開催支援業務」としては、庁内の各局等が大会期間中に実施するイベント等の開催に必要となる警備員で

すとか、市内回遊性の向上を目的とするバス等を確保するほか、各イベントの事前プロモーション等を一体的に実施するものでございます。現在庁内の観光・経済振興部会におきまして、大会期間中の市内の観光スポット、あるいはイベント会場をめぐる回遊策のほか、民間事業者や地域の団体等が主体となって実施するイベントの可能性なども含め、検討を進めているところです。

あわせて、これら回遊策、またイベントを安全、安心、また確実に実施するために、共通的に必要となる警備員配置、あるいは輸送バスの運行、国内外へのプロモーション等を一体的に管理運営していくための実施計画の策定作業を進めているところです。

次に、「東京２０２０大会都市装飾事業」として計画しておりますのが、東京２０２０大会開催前から大会終了までの間、国際オリンピック委員会及び大会組織委員会が定めたデザインや、本市のオリジナルデザインのバナーやフラッグ等を用いて、競技会場と最寄り駅を結ぶ「ラストマイル」と言われるエリアや主要駅等の街中を装飾していく予定です。現在装飾物の設置に当たり、設置先の各施設管理者と調整を進めるとともに、装飾を実施する場所や装飾物のデザイン、形状、また数量等を定めた「都市装飾計画」を策定し、大会組織委員会に提出し、内容についての協議を進めているところです。

国内外から来訪する観戦客に対して、各イベント開催前の段階、また開催期間におけるプロモーションに力を入れて、ウェブあるいはＳＮＳ等を活用して積極的に観戦客等にアプローチをしてまいりたいと考えております。

また、市内回遊バスを運行させることで各イベントや観光スポットへの誘客の促進、にぎわいの創出につなげていくとともに、東京オリンピックという貴重な機会に一人でも多くの方々に、また少しでも長く本市に滞在いただけるように、本市の魅力に触れていただけるよう、しっかりと準備を進めていきたいと考えております。

続きまして、幹事社質問２番の「新たなモビリティサービスによる『まち』づくり協議会」の取組と今後の方針についてお答えします。現在、交通における社会的な課題として、道路混雑、また少子高齢化などに伴います交通サービスの縮小、高齢者の免許返納者の増加や障害のある方の移動の確保など、交通サービスのさまざまな課題があり、その解決が求められております。

行政サービスとして、「あらゆる人がどこへでもシームレスで、安全で自由に移動することができる社会の実現」が必要であると考えております。このために、自動運転とともに鉄道やバス、カーシェアリングなど、さまざまなモビリティ手段を一つのサービスとして捉える「ＭａａＳ」などの実現に向けた、「新たなモビリティサービス」を導入したまちづくりの検討を進めております。

その取組として、ＡＩ、ＩｏＴ、５Ｇ、自動運転などを活用した社会インフラの構築を目指し、東西交通のインフラが脆弱であることや渋滞の解消などといった地域の活力強化に関する共通の課題を抱えております県東部の５市１町、これは三郷市、越谷市、草加市、八潮市、吉川市と、それから松伏町と相互に協力連携して、広域で新たなモビリティサービスを導入したまちづくりを進めるための協議会を６月に設置しました。これまで行政が主体となる次世代の移動サービスを提供する「ＭａａＳ」の新しい概念であります「Ｐ―ＭａａＳ」、パブリックのＰをとりまして、「Ｐ―ＭａａＳ」によるまちづくりを目指し、研究を進めてきております。

協議会は、これまで１０月と１２月と２回開催しており、第１回は専門家を講師として招き、海外の具体的先進事例を交えた自動運転等の最新動向、またＭａａＳの先進事例についての知見を得ました。また、第２回は国土交通省による今後の道路政策の方向性、また自動運転システムによる移動性の確保の取組事例についての講演をしていただきました。

今後は、今月２９日に第３回の協議会を開催する予定であり、東京大学の柏キャンパスにおいて次世代モビリティの試乗会を行う予定です。自動運転車両であるフランス製の「ナビア　アルマ」などの次世代モビリティに実際に乗りまして、構成メンバーの首長さんとの意見交換を行う予定です。また、さいたま新都心におきましても次世代モビリティ走行実証実験の実施を検討しているところです。

今後は、さらに「ＭａａＳ」など新たなモビリティに関する研究会、また意見交換会を行い、並行して民間事業者や大学等の研究機関とも連携し、実フィールドで実証実験を行って課題の洗い出しを行うことで「Ｐ―ＭａａＳ」としてのモビリティサービスを具体化したいと考えております。

続きまして、３つ目のご質問、「さいたま市成人式の所感と今後の方針」

についてです。令和２年さいたま市成人式について、当日は１万人以上、対象者が１万３，４０３名でございましたが、入場者数としては１万３０３名、出席率７６．８７％と、非常に出席率の高い形で行うことができました。盛大でありながらも厳粛な雰囲気の中で、良い式になったと考えております。

今後の方向性についてですけれども、現在さまざまな想定の中での問題点を洗い出している段階でして、国の動向、また他の政令指定都市、また県内の自治体等の状況も考慮した上で、なるべく早い段階でこの方向性について示せるようにしていきたい、このように考えております。

私からは以上でございます。

その他：さいたま国際マラソンの次回開催について

○　埼玉新聞　　ありがとうございました。

代表質問の説明に関して、質問がある人はお願いします。

それでは、そのほかに質問がある人は質問してください。

○　時事通信　　時事通信と申します。

今朝、一部の報道で、さいたま国際マラソンが見送りになるという発表が報道があったんですけれども、これについて事実かどうかと、事実ならば受け止めを市長からお願いします。

○　市　　長　　次回の大会については、まだ現時点においてお伝えできる状況にございません。

○　時事通信　　それは、見送りかどうかもまだ言えない、市長のほうからは言えないということでしょうか。

○　市　　長　　現時点では、お伝えをできる状況ではないということでございます。

○　ＮＨＫ　　ＮＨＫです。

何点かありまして、１問ずつ質問させていただいていいですか。まず、次の大会についてお伝えできる状況にないということなのですけれども、もともとさいたま国際については難しいコースで、記録が出にくいということで、トップレベルの選手が敬遠しているという話も課題になっていたと思います。実際去年のＭＧＣファイナルチャレンジでも日本人招待選手で実際に走られたのはお一人でしたし、選考レースとして成り立たないのではないかという指摘もあったと思うのですけれども、こういう指摘についてはどのよう

に受け止めていらっしゃいますか。

○　市　　長　　まず、有力選手が少なかったということについてですけれども、開催時期を当初１１月の初めに行っておりましたが、これを１２月にずらしたり、コースを一部見直したりと、有力選手が参加しやすい環境整備に努めてまいりましたけれども、国内有力選手の増加には結果的には至らなかったと思っており、大変残念に思っております。

○　ＮＨＫ　　選考レースとして厳しいというようなお考えをお持ちだったのでしょうか。増加に至らなくて残念だということですけれども、選考レースとして次の大阪国際には実際日本人選手として10人エントリーされていますけれども、それに比べるとお一人だけというのは非常に寂しい状況かなと思うんですけれども、運営側としても選考レースとしての位置づけはなかなか厳しいかなというようなお考えもあったんでしょうか。

○　市　　長　　先ほど申し上げましたが、大きくはスケジュールの問題と、やはりコースの問題が非常に選考レースという視点でいうと課題であるという認識のもとに改善をしてきたところでございますけれども、この２つのテーマについては、それぞれ５者で運営しておりますし、時期については日本陸連との関係が強くございますし、またコースについては陸連プラス埼玉県警察との協議等々も必要となっておりますので、そういった中で協議を進めながら、今回はその中でまずできる改善をやってきたということでございます。

○　ＮＨＫ　　マラソンについては、清水市長もフルマラソンをご自身で走っていらっしゃいますし、一昨年はビギナーをつくったり、かなり大会に力を入れていらっしゃったと思います。実際毎年２万人近くの方が走って５回も開催をして、マラソン大会として一定の定着をしてきたかなと思っているんですけれども、今後のマラソンにかける、マラソン大会にかける思い、マラソンというものに対する市長の思いですとか、マラソン大会を実施するということについての思いについてお聞かせください。

○　市　　長　　このマラソンについて、一番の目的としては、スポーツの振興であったり、このスポーツを通じて地域の振興につなげていこうということが大きな目的として実施をしてきたわけですけれども、この中で大変大きな意義を果たしていると考えております。

○　ＮＨＫ　　今回のケースについて、まだお答えできないということですけれども、仮

に代表選考レースでなくなると、やはり世間の注目度も変わると思いますし、スポンサーの反応も従来と変わってくるかなと思います。一方で、やっぱりさいたま国際を目標に日々練習してきていたり、走ることを楽しみにしていらっしゃるランナーもいらっしゃると思うのですけれども、今後魅力的な大会にするためにどのようなことが、今コースの難しさですとか開催時期等とおっしゃいましたけれども、魅力的な大会にするためにはどのようなことが必要だというふうに考えていらっしゃいますか。

○　市　　長　　今も申し上げましたとおり、このマラソン大会の大きな目的としてはスポーツ振興、スポーツをすることの楽しさを知っていただいて、スポーツを楽しんでいただく、また、するだけではなくて、応援をしたり、さまざまなサポートをしていただいたり、いろいろな形でスポーツに関わっていただくという文化をつくり上げていくというものが一つと、それからスポーツを通じた地域振興、あるいは地域の活性化につなげていこうというものでありますので、そういう意味ではランナー、あるいはそれを支えるボランティアであったり、応援をしていただいている沿道の方々であったり、いろいろな形で参加していただいている方々の意義をより一層高めていく、そういった皆さんへ、より一層効果というか、満足度を高めていくという取組が必要であると考えております。

○　ＮＨＫ　　あと、市長は公約の中でもマラソンについて書かれていたかと思うんですけれども、今後大会運営について実施していきたいという思いがあるのかどうかお聞かせください。

○　市　　長　　従来から申し上げております。この大会そのものについては今何もお話しする段階ではありませんけれども、基本的にはさいたま市はスポーツのまちづくりを成長加速化戦略、あるいはしあわせ倍増プランなどにおいてもスポーツを活用して健康寿命を延ばすということを大きな目的にして、そのまちづくりを積極的に進めているところであります。その中でやはり重要な要素であると考えておりますので、その中でより価値のあるものにしていくということだろうと思っております。

○　ＮＨＫ　　継続していきたいということですか。

○　市　　長　　そうですね。基本的にはそういう考え方です。

○　毎日新聞　　毎日新聞です。

さいたま国際マラソンの市の負担金のことなんですが、第１回のほうは１億５，０００万だったのが、もう２億５，０００万円になっていると、毎年毎年出し続けていると思うんですが、それについてはどうお考えでしょうか。

○　市　　長　　１回目と２回目の違いは、１つは市民マラソンとしての規模が全く違っていましたので、１回目のときには（制限時間が）４時間以内ということで、定数も今の３分の１ぐらいだったと思います。当然コストがかからないという状況、現時点での大会規模と比べると少ない状況であったと認識しております。２回目以降は、３倍ぐらいの参加者に増やして行われてきましたので、その中で５者との連携の中で（負担金についても）決定をしてきたところであります。

いずれにしても、私たち行政としては、できるだけ少ない予算で大きな効果を上げるということが基本的な考えですから、これまでも（負担金の）削減については５者協議の中でも意見を申し上げたり、取り組んできたところでございます。

○　毎日新聞　　２億５，０００万は、やっぱり高いと思われてる。

○　市　　長　　そうですね。やはりできるだけ少ないほうがいいと思っております。

○　毎日新聞　　例えばフルマラソンとハーフマラソンでは、やっぱり警備の人の数だったり全く値段は変わってくると思うんですが、やはりフルマラソンがいいという考えなんですかね。

○　市　　長　　これまでは、さいたま市はちょうど５年前にフルマラソン、それまでは「さいたまシティマラソン」というハーフマラソンの大会をやってきたところですけれども、その中でフルマラソンにという市民の皆さんの要望もありましたし、マラソンという競技が、市民の皆さんのスポーツをするための大きなきっかけになったり、あるいは市外からも多くの方々に来ていただくことによって、地域の活性化にもつながる事業だということで、数年前からフルマラソン化ができないかと協議をしてきて、将来はフルマラソン化を果たそうという中で調査をしてきた際に、横浜国際女子マラソンの後継大会をというお話がありましたので、連動させながら実施をしてきた経緯があるということです。

○　毎日新聞　　やっぱりフルマラソンがいい。

○　市　　長　　フルマラソンはフルマラソンの良さがあるし、ハーフマラソンはハーフマラソンとしての良さがあると思っておりますけれども、やはりハーフマラソンに出たい、あるいはハーフのほうがいいという方もいらっしゃるかもしれませんが、やはりフルマラソンへの期待であったり、あるいは意欲ということ、市民の皆さんからの思いもそうですし、フルマラソンのほうがより広域的に人が来ていただけるということもございますので、そういったことを総合的に考えると、やはりフルマラソンがよりいいのではないかと、私としては考えております。

○　毎日新聞　　そうすると値段を下げていくとしたら、スーパーアリーナが高いんじゃないかとか、駒場にしたらとか、いろいろあると思うのですが、そういう考えはあるんですか。

○　市　　長　　いずれにしても、引き続きどうやったらコストの縮減を図りながら価値のある大会にできるかということは、毎年検討してきておりますので、今後も、より少ない予算でより価値のあるいい大会にしていくということが、基本的な姿勢であると思っております。

○　毎日新聞　　やっぱり公認であることは大事ですよね。

○　市　　長　　フルマラソンに参加される方々にとっては、記録そのものが公認大会として位置づけられるかどうかということも、結構重要な要素になりますので、どちらがいいかと言われれば、それは当然公認のほうが、より多くの方々が参加をしていただける可能性のある大会だということになると思います。

○　時事通信　　時事通信です。

ちょっとさっきとかぶってしまうんですけれども、大会の開催について話せる段階にないということだったのですけれども、そもそも開催するかしないかについて今は言えないということですか。

○　市　　長　　現時点で、次回の大会について何かお話しできる段階ではないということです。

○　時事通信　　開催しないという検討は、今市役所でされていますか。

○　市　　長　　今申し上げたとおり、次回の大会について今何かを申し上げられるタイミングではないと。

○　時事通信　　その言えないタイミングで言えないというのは、どういう理由から言えないんでしょう。

○　市　　長　　それは、予算編成をさせていただいたり、いろいろなことをやっている段階ですので、いずれにしても現時点で正式に決まっていることはございませんので、これからということになります。

○　毎日新聞　　いつ言えるのですか。

○　市　　長　　今後、予算案を提出したりというようなことがございますので、そういったタイミングでは、必要があればお答えすることはできるのだろうと思いますけど。

○　時事通信　　重ねてになってしまうんですけれども、一部の報道では、その開催しないという検討が出ていると思うのですけれども、これについての審議というのも言えないということですか。これが間違っているかどうかということについても。

○　市　　長　　先ほども申し上げたとおり、次の大会については今まだお話できる段階ではないと。

○　時事通信　　その出ている報道が間違っているかどうかということも言えないですか。

○　市　　長　　現時点では、次回大会についてお話しできるタイミングではないということです。これは、次回の大会について聞かれても、そう答えるしか現状ではありません。

○　産経新聞　　産経新聞なんですけども、予算の関係もあるということなんですけれども、議会の承認を得なければいけないということですか、要は。

○　市　　長　　要するに、あらゆることの決定がまだなされておりませんので、そういった意味で公表できるタイミングではないということです。

私たち主催者５者で、連携してこの大会を運営しておりますので、その中で、次回の大会についてはこうなりますよというご報告はなされるものだと考えております。

○　産経新聞　　その５者協議というのは、頻度としてはどれぐらいのタイミングで。

○　市　　長　　それは随時、必要があるときにやっております。

○　産経新聞　　直近で、１月にあったんですか。

○　市　　長　　１月にも当然あります。

○　産経新聞　　そこで見送りの話というのは出たんですか。

○　市　　長　　その次回の大会についての内容については、今お話しすることができないということ、それに関するご質問については現時点ではお答えできません。

○　産経新聞　　そういうことが出ていなければ、こういう報道はないような気もするんですけど。

○　市　　長　　ですから、今まだ決定して公表できる段階ではありませんということです。

○　埼玉新聞　　埼玉新聞と申します。

今の件なんですけれども、予算の関係もあってというのと、あと５者の主催者がいるので、現段階ではということなんですけれども、予算については２月議会が始まる段階で、ある程度形が見えてくるかと思うんですが、予算について、例えば開催するしないも含めて、例えば前年度からこれぐらい削減したとかというある程度のものは、２月議会には上程されるということの認識でよろしいんでしょうか。

○　市　　長　　基本的には、次年度の方向性については、きちっと予算の中で検討して、それを提出するのが予算のあり方だと思いますので。

○　埼玉新聞　　というと、予算は計上しているということでよろしいのですか。

○　市　　長　　それらについても、予算案がもうじき発表されると思いますけれども、その段階でご確認いただければと思います。

その他：さいたま市の水道管の状況について

○　埼玉新聞　　埼玉新聞と申します。

ちょっと別の質問なんですけれども、先日和歌山市で水道管の修繕をする、しないということで、大規模な断水が起こる、起こらないということで、結局断水が起こらずに、和歌山市長が謝罪して給与カットなんていう、すごく混乱を招く事態がありました。まず、これについての受けとめと、水道管の老朽化をめぐっては、全国的に非常に問題になっているかと思うのですけれども、さいたま市内での状況について教えていただけますでしょうか。

○　市　　長　　まず、さいたま市の状況ですけれども、本市の場合は水道の管路については約３，６４９キロメートル（平成30年度末）ございまして、そのうち法定耐用年数を超過している管路は約２５９キロメートル（平成30年度末）で、管路の７．１％（平成30年度末）が法定耐用年数を超えている、老朽化している管という状況です。（平成29年度末時点（6.8%）の比較となるが）政令市の中では一番低い状態です。比較的そういった更新を、さいたま市はして

きたという状況にあるということです。

また、耐震管率としても４８．５％、これは平成３０年度末の数字ですけれども、これも（平成29年度末時点（47.3%）の比較となるが）政令市の中では最も高い状況にございます。

また、基幹の管路についても７５．３％（平成30年度末）が耐震の適合をしているということで、（平成29年度末時点（75.1%）の比較となるが）政令市の中で４位ということで、現状としては毎年定期的にこの基幹管路も、あるいはその他の水道管についても更新を続けている状況です。

そういう意味では、今回和歌山市のような大規模な漏水修繕が発生するかということについては、比較的起こりにくい、起こらないとは申し上げられないのですけれども、起こりにくい環境にあると。少なくとも、過去には、本市ではそういったことはございませんでした。また、この漏水についての調査も、いろいろな形で漏水調査業務を行わせていただいたり、常設の探知機での調査を行わせていただきながら、定期的にきちんと漏水についての状況を把握をしながら、修繕体制あるいは対応についても行っているところです。

漏水の修繕については、３０年度は２３件、２９年度は２４件、２８年度は１６件で、適宜漏水があったときには対応させていただいている状況になっております。

いずれにしましても、もしこういった状況が発生した場合で言いますと、水道局の中に危機対策本部を設置して市民への広報活動をしっかりと行って、断水作業を行う際には管網計算にてシミュレーションを行って、水が濁ったり、水が出なくなったりする範囲を想定して事前の周知を行うことができますので、そういった形で周知をしていくと。そして、さらに排水作業の実施とともに給水車、あるいは応急の給水場所での給水を行える体制をすぐに実施するという危機管理体制で臨んでいるところでございます。

以上でございます。

その他：さいたま国際マラソンの次回開催について

○　ＮＨＫ　　追加ですみません。

厳しい表情のコメントが続いたので、ちょっとお聞かせいただきたいなと

思うのですけれども、実際フルマラソンを走られて、走られたからこその魅力というのも感じていらっしゃるかなと思うんですけれども、その大会を運営することですとか、実際に走ることの魅力というのは、どういうことがありますか。

○ 市　　長　　私は、５回中３回フルマラソンを走らせていただいて、いずれも完走させていただきました。その前に、さいたまシティマラソン、ハーフマラソンでしたけれども、そのときも７回ぐらい走らせていただきました。

それまで私自身、どちらかというと走ることは余り得意ではなく、また好きでもなかったということでありましたけれども、さいたまシティマラソンをちょうどさいたま市が誕生して１０周年の際に、さいたまスーパーアリーナを出発して、さいたまスーパーアリーナに戻ってくるというコースで実施させていただいて、それが東日本大震災からちょうど１周年のときにぶつかりました。そのようなこともあったので、初めて私もさいたまシティマラソン（ハーフ）に挑戦しようという気持ちになって、東日本大震災からの復興をさいたま市としても応援する、後押しをする大会にしていきたいという思いが一つと、それからスポーツのまちづくりを進めていましたので、走ることの楽しさをぜひ市民の皆さんに知っていただきたいという思いで、私自身も走ることで、それを発信ができればという２つの思いで走りました。

最初のハーフマラソンは本当に悲惨なものというか、本当にぎりぎりでゴールができたという状況でした。それがちょうど私自身は５０歳のときでしたけれども、以来、何度かハーフマラソンを走り、そしてフルマラソンをやる中で、やっぱりマラソンの楽しさというのは、走ることは非常に苦しかったり大変だったりするんですけれども、それが終わった後の達成感であったり、あるいはそのための準備をする上での健康管理であったり、コンディションづくりであったり、あるいは走っている最中の応援している観客であったり、ボランティアの皆さんであったり、そういった皆さんとの一体感であったり、あるいは走っているランナー同士のコミュニケーション、これも走ったランナーでしか味わうことができない何とも言えない一体感があって、そういう何か全てが凝縮されたような、そしてそれぞれの地域のまちの景色が、町並みが、普段、車で移動していては決して気づかないいろいろなまちの様子、景色を見ることができたりもします。そしてその地域の皆さんと身

近にハイタッチをしたり、あるいはいろいろなサポートをしてくれることで交流やコミュニケーションも生まれるということもあって、非常に多岐にわたる効果を自分自身も感じましたし、多くのランナーはそういったことを感じていただいているのだろうと思っております。

そういう意味では、このマラソン大会の価値というのは、非常にあるものだと思っております。

○　ＮＨＫ　　その上で、今年はオリンピックイヤーですし、やっぱり清水市長もかねてからスポーツをレガシーにということもおっしゃっていたと思うんですけれども、そういう中でマラソン大会を今後も継続されていく、次回大会は別としてですけれども、継続されていきたいという思いということでので、今後のやっぱり期待されている市民の方も多いかと思うんですけれども、マラソン大会にかける思いを改めてお聞かせいただけますか。

○　市　　長　　さいたま市としてはスポーツを柱に、スポーツが持っている、これはもちろんマラソンに限りません。スポーツが持っているいろいろな力があると思っております。それは、健康の維持増進ということはもちろんですけれども、それ以外にも地域の活性化であったり、あるいはいわゆるコミュニティづくり、人と人とのつながりであったり、あるいはまちづくり、ハードとしてのまちづくりであったり、いろいろなものにつながっていくと私は捉えています。

そのためのシンボルとなる事業の必要性というのは、今もこれからも変わるものではないと思っておりますので、引き続き市民の皆さんが、そういったスポーツをする人、あるいは支える人、あるいは学ぶ人、いろいろな関わり方があると思いますけれども、そういった方々を増やしながら、これからの少子高齢化などさいたま市が抱えるであろう課題を、そういったスポーツのまちづくりを通じて解決をしていきたい、そのためのシンボル的な事業として、このマラソン大会がその一つだと捉えております。

○　産経新聞　　ちょっと確認なんですけれども、５者協議で見送りというのは合意したとか、そういうわけではないんですか。

○　市　　長　　再三申し上げておりますが、現時点では次の大会について何か申し上げられる時期ではないと、こういうことでございます。

○　時事通信　　もう一回重ねてになってしまうのですけれども、今朝の報道についても大

会の開催自体ではなくて、その開催を見送るという報道についても、市長は寝耳に水というか、驚きだったということですか。

○　市　　長　　その次期の大会の開催にかかわる質問には、現時点ではお答えすることができないと、こうご理解ください。

○　時事通信　　報道そのものについても何も言えないということですか。

○　市　　長　　その報道については、次期の大会についての報道ですので、今のところそれについては何も申し上げられないということです。

○　時事通信　　報道については把握されているんですよね。

○　市　　長　　全部隅から隅まで把握しているわけではありませんが、概ねの内容については把握をしておりますが、いずれにしても現時点では、そういったことをお話しできるタイミングではありません。

○　朝日新聞　　朝日新聞です。

過去の大会をご覧になって、さいたま国際マラソンの件なのですけれども、市長ご自身が世界選手権の代表選考レースとして維持するには難しいなとか、そういう思いはあったんですか。それとも、このマラソンで十分なんだというふうなことをさいたま市としては思っていたのか、そのあたりはどうなんでしょうか。

○　市　　長　　代表選考レースの大会としては、先ほどもお話をしましたが、今はいわゆる高速レースといいますか、タイムが中心、一番の注目点でありますので、出やすいコースであったり、出やすいタイミングで開催をすることがより多くの有力選手が出ていただける、より多くの有力選手が出ていただけるようなタイミングとかコースということが、1つ課題であると考えていたということです。その中で、いろいろ改善には取り組んできたということです。

○　朝日新聞　　改善したきた結果、その代表選手、世界選手権の代表選考レースとしては、ふさわしいレースであるというふうにさいたま市としては思っていたのかどうなのかということなんですけれども。

○　市　　長　　それは、もちろんそう思っています。

○　朝日新聞　　そのお考えは、今現時点でもお変わりはないわけなんですね。

○　市　　長　　ありません。

○　朝日新聞　　すると、次回の大会についてお話しできないということではありますけれども、市長としては、引き続き代表選考レースとしてふさわしいさいたま国

際マラソンを続けていきたいというのが、思いとしてはあるという理解でいいんですか。

○　市　　長　　私たちとしては、より代表選考の対象になる選手が出てほしいという希望は、もちろん持っているわけでありますし、そういった代表選考レースとしての価値と、もう一つは市民マラソンとしての価値と、２つの意味合いがあると思っていますけれども、それを高めていくという努力はこれまでも続けてきましたし、基本的には今後も続けていくということです。

○日本経済新聞　　関連して確認なんですけれども、仮に５者協議で来年度国際大会としてはやらない、見送りという形になった場合に、さいたま市単独として、市民マラソンという形で来年度開催するというお考えはあるということでよろしいのでしょうか。

○　市　　長　　仮のお話については、現状としてはお答えできません。

○　埼玉新聞　　埼玉新聞です。

今現段階でお話いただけないということなんですけれども、どこかの段階で必ずお話をいただけるという解釈でよろしいのでしょうか。

○　市　　長　　はい。

○　埼玉新聞　　ほかいかがでしょうか。

どうもありがとうございました。以上をもちまして本日の記者からの質問を終了させていただきます。

○　進　　行　　以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。

なお、次回の開催は１月３１日金曜日、１３時３０分からを予定しております。本日はありがとうございました。

午後　２時２６分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（　　）とし、下線を付しています。